

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都千代田区九段北1-8-10

## 為替週間展望 = ドル円は 113 ~ 114 円台でのみみ合いか

[11月1日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		10月25日~10月29日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	113.66	114.31(26)	113.26(28)	113.53	+0.03
ユーロ・ドル	1.1638	1.1692(28)	1.1582(28)	1.1670	+0.0027
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	28,892.69	+87.84	日本10年債利回り	0.098	+0.001
ダウ平均株価	35,730.48	+53.46	米10年債利回り	1.580	-0.052
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 31日 中国10月製造業購買担当景気指数
- 1日 中国10月財新製造業購買担当景気指数  
米9月建設支出  
米10月ISM製造業景況指数
- 2日 豪中銀(RBA)政策金利  
スイス10月消費者物価指数、スイス9月小売売上高
- 3日 NZ第3四半期雇用統計  
豪9月住宅建設許可件数  
ユーロ圏9月雇用統計  
米10月ADP雇用統計  
米10月ISM非製造業景況指数  
米9月製造業受注  
米連邦公開市場委員会(FOMC、2~3日)政策金利  
パウエルFRB議長記者会見
- 4日 豪9月貿易収支  
独9月製造業受注指数  
ユーロ圏9月生産者物価指数  
英中銀(BOE)政策金利  
カナダ9月貿易収支  
米新規失業保険申請件数、米第3四半期非農業部門労働生産性指数  
米9月貿易収支  
石油輸出国機構(OPEC)プラス閣僚級会合
- 5日 日本9月勤労者世帯家計調査  
独9月鉱工業生産指数  
ユーロ圏9月小売売上高指数  
カナダ10月雇用統計  
米10月雇用統計  
カナダ10月Ivey購買部協会指数

【前回のレビュー】ドル円は20日に114.70付近まで上昇した後は上げ一服となり、高値圏でもみ合いとなっている。ドル円の114円台ではやや上値は重いものの、米10年債利回りは21日に1.70%台に乗せるなど上昇傾向にある。こうしたことを背景にドル円は調整一巡後は一段高が見込まれるとした。

【ドル円はレンジ相場が継続】

ドル円は20日に114.70まで上昇して、2017年11月以来の高値圏まで上昇した。その後は高値警戒感などもあり、修正安に転じた。ただ、113.30台では

下げ渋りを見せるなど底堅い動きとなっており、113～114円台で一進一退の動きとなっている。

ドル円とユーロ円、ポンド円、豪ドル円などのクロス円は10月20～21日に直近の高値を付けた。それまで上昇を続けていたことやテクニカル面での過熱感などから、その後は上昇一服となっている。ユーロドル、ポンドドル、豪ドル/米ドルも同様に高値圏でのみ合いとなっている。

米10年債利回りは、21日に1.70%台まで上昇した後は低下傾向にあり、27日には一時1.51%台まで低下した。金融政策の正常化を見込んで、金融政策の影響を受けやすい中期債や短期債を売って（利回りは上昇）、長期債を購入する（利回りは低下）動きなどが背景にある。米10年利回りと米2年債利回りの差（イールドスプレッド）は、21日の1.27%付近から、一時1.04%前後まで縮小した。

11月2～3日に開催される米連邦公開市場委員会（FOMC）では量的緩和の縮小（テーパリング）の開始が決定すると見込まれている。ただ、パウエル議長は22日の発言でテーパリングに前向きな姿勢を示したものの、「利上げは時期尚早」と早期利上げ観測にクギを刺した。

米連邦準備制度理事会（FRB）のよるテーパリングの開始決定は確定的と見られ、11～12月にも開始となろう。来年半ばに向けてテーパリング終了の道筋が示される可能性がある。それと、原油価格の上昇が続いており、FOMCの声明やパウエル議長の記者会見で、物価上昇が一時的との認識に変化が見られるかが注目される。「一時的」ではなく、物価の沈静化にはもうしばらくかかるとの認識を示すようなら、利上げの前倒し観測につながり、ドル高に傾きやすくとみられる。

もっとも利上げ前倒し観測による米長期金利の上昇は景気回復に水を差すことになりかねないため、過度な利上げ前倒し観測につながらないように慎重な配慮を示すこととなろう。このため、FOMCの結果発表の内容も市場予想から大きく逸脱したものにはなりにくいとみられる。こうした状況のため、ドル円は113～114円台を中心とするもみ合いが見込まれる。なお、米長期金利が上昇するようなら115円乗せを試す場面も見られそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、113.50～115.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、1日に米9月建設支出、米10月ISM製造業景況指数、3日に米9月製造業受注、米連邦公開市場委員会（FOMC、2～3日）政策金利、パウエルFRB議長記者会見、4日に米新規失業保険申請件数、米第3四半期非農業部門労働生産性指数、米9月貿易収支、5日に日本9月勤労者世帯家計調査、米10月雇用統計などがある。

#### 【ユーロドルは堅調に推移か】

10月28日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、金融政策に変更はなかった。パンデミック緊急購入プログラム（PEPP）は「少なくとも来年3月までは継続」「購入ペースは過去数四半期を下回るペースで継続する」「資産購入プログラム（APP）は月額200億ユーロのペースを維持」といった方針が示された。

理事会後の記者会見で、ラガルド総裁は、「インフレは一段と上昇する見込み」「インフレ圧力は2022年には緩和されるはず」「市場の利上げ観測はガイダンスに沿ったものではない」「PEPPの購入ペース縮小はテーパリングではない」などと述べた。

ラガルド総裁の記者会見の内容が予想よりもタカ派的との受け止め方が広がったことや米第3四半期国内総生産（GDP）速報値が予想を下回ったことから、ユーロ買いドル売りの動きが広がった。ユーロドルは1.16近辺から1.1692近辺まで上値を伸ばした。大きく上昇した後、調整の動きが入る可能性はあるものの、その後は一段と上昇する展開となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1580～1.1800ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、31日に中国10月製造業購買担当景気指数、1日に中国10月財新製造業購買担当景気指数、2日に豪中銀（RBA）政策金

利、スイス10月消費者物価指数、スイス9月小売売上高、3日にNZ第3四半期雇用統計、豪9月住宅建設許可件数、ユーロ圏9月雇用統計、4日に豪9月貿易収支、独9月製造業受注指数、ユーロ圏9月生産者物価指数、英中銀（BOE）政策金利、カナダ9月貿易収支、5日に独9月鉱工業生産指数、ユーロ圏9月小売売上高指数、カナダ10月雇用統計、カナダ10月IVEY購買部協会指数 などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。